

平成 22 年度 理研バイオリソースセンター レビューA 委員会 諮問事項について  
細胞運命情報解析技術開発サブチーム

1. 各室・チームは科学的に大きな意義のある業績及び社会的に波及効果の大きな業績を挙げているか。

総評： 高い技術レベルに基づいた研究を行っており、能力も高く、実績は挙がっており評価される。

- ・ レンチウイルスベクターに関する開発研究は特に評価できる。
- ・ 造血幹細胞の体外増幅、iPS 細胞の作製についても、十分な成果が得られていると思われる。
- ・ 小さなグループとしてはよくやっていると思われる。
- ・ 共同研究により大きな業績を挙げているが、自身の責任著者としての業績を挙げることに努力して欲しい。

2. 各室・チームの運営にかかわる Plan-Do-Check-Action (PDCA) サイクルは機能しているか。

A. 前回の BRAC、リソース検討委員会及びセンター内自己点検・評価の指摘事項への対応状況について。

総評： BRAC、レビュー委員会及びセンター内自己点検・評価の指摘事項への対応は、判断が難しい。

- ・ 指摘事項に対して、新たな目標を立てて努力している。
- ・ レビュー委員会での指摘事項に必ずしも合致していない点があるが、優れた成果を出しており、本人の希望に沿った研究が行えるようにしていただいて良いと思われる。
- ・ iPS 樹立には貢献している。一方、iPS 細胞については標準化にあつたはず。iPS 研究の位置づけについて、内外評価の視点に「差」があり、当チームの対応に「戸惑い」を感じる。BRC 内で、さらに議論を深める必要があると思われる。
- ・ レンチウイルスベクターについての期待は、BRC 内部での期待と異なっていた。
- ・ 造血幹細胞研究の進展はあまりない。

B. 今中期計画の残りの 2 年間の方針及び実施計画について

総評： 意欲的な計画が立案されている。チーム規模を考えると、優先順位をつけて取り組むことを考える必要があるのではないか。

- ・ 今後は軌道修正がしばしば必要と考えられる。
- ・ iPS 細胞作製を用いた細胞老化研究を計画しているが、三好先生としての利点があるかが疑問である。造血幹細胞の研究はこれまでの実績があるので、促進すべき研究である。
- ・ 今までの iPS の仕事は横道であった感がある。iPS 細胞研究への貢献は理研内部での整理が必要。臍帯血を利用する研究にも係わることも考慮すべき。
- ・ 自己の研究志向が高い。

3. 各室・チームのセンター内外における連携活動及び国際連携の促進について(特筆する活動・成果があればご記入お願いいたします)。

- ・ チームの規模を考えると、非常によくやっている。
- ・ レンチウイルスベクターの供給を通じた連携は非常に大きい成果を得ており、高く評価できる。
- ・ 少なくとも一部のチームとの連携はスムーズに進んでいるようだ。
- ・ 余力があれば、国際連携についても促進して欲しい。
- ・ イメージングで理研内の連携がよく図られている。しかし、造血幹細胞分野ではもっと Communication をよくすべき。

4. その他コメントがございましたらご記入お願いいたします。

- ・ 研究チームが小さいので、研究開発テーマを絞った方が良いのではないかと。より戦略的な研究計画の立案が望まれる。
- ・ レンチウイルスベクターを TG マウス作製、ヒト疾患モデル作製に使えるなら、活路があるのではないかとと思われる。
- ・ レンチウイルスの開発にも今後も協力して欲しい。

以上